

auカブコム証券株式会社

2022年3月期 第2四半期

決算説明資料

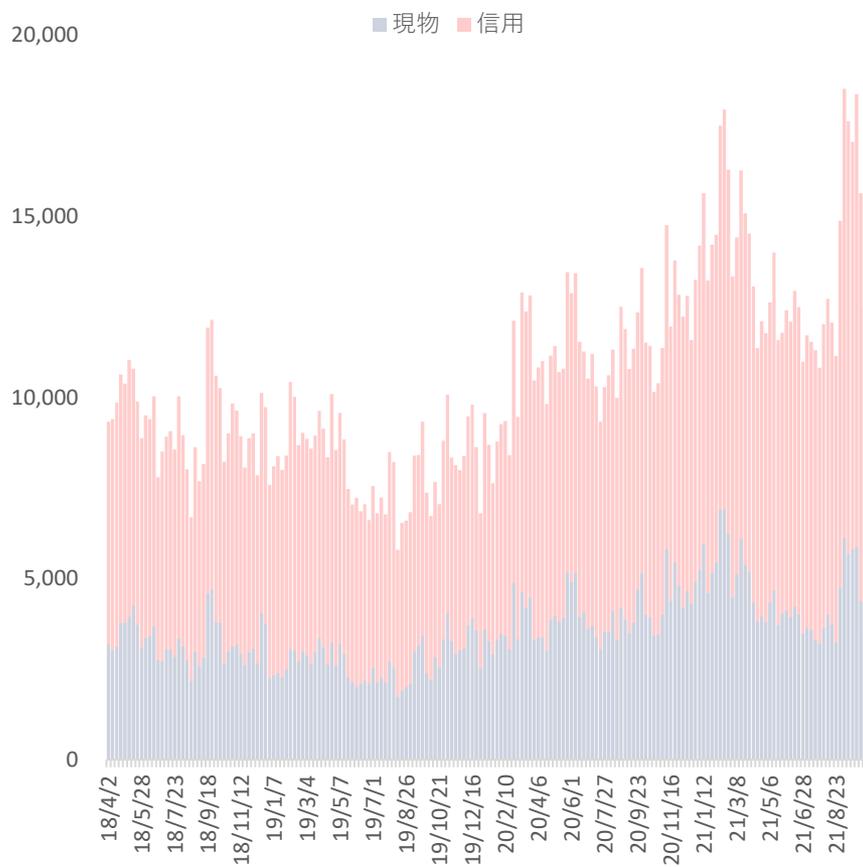
2021年10月27日



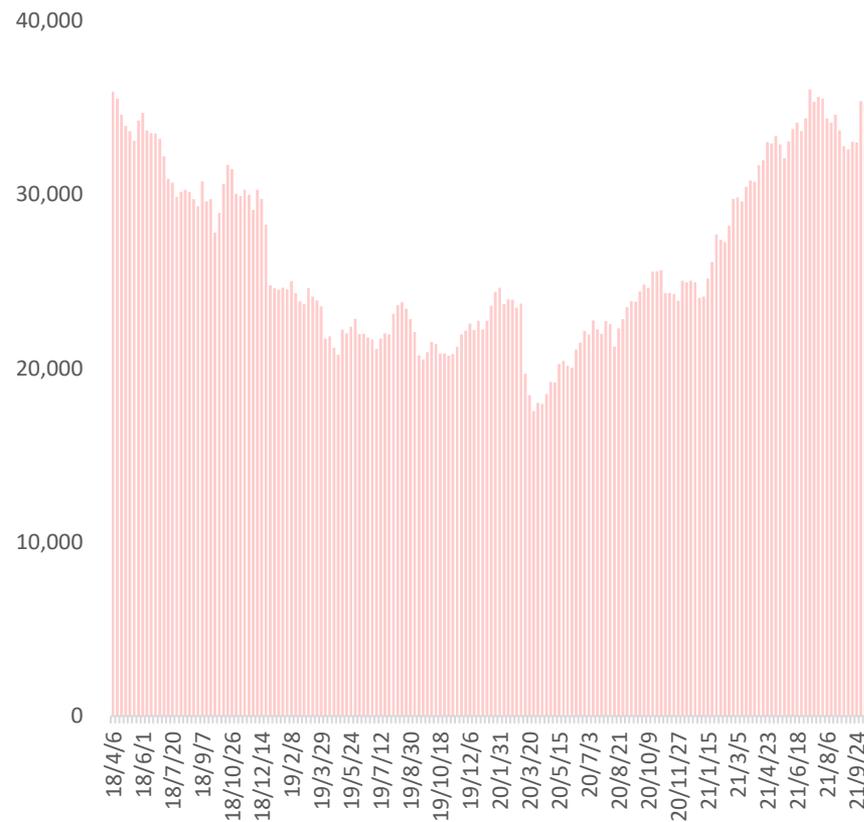
市場環境：二市場個人売買・信用買残（週次）

- NYダウは8月に最高値更新、日経平均株価も9月にバブル経済崩壊後の最高値を更新。
- これを受けて二市場個人売買代金、信用買残高共に、数年来のピークを形成中。

【週次】二市場個人売買代金/日（億円） ※ETF,REIT除く

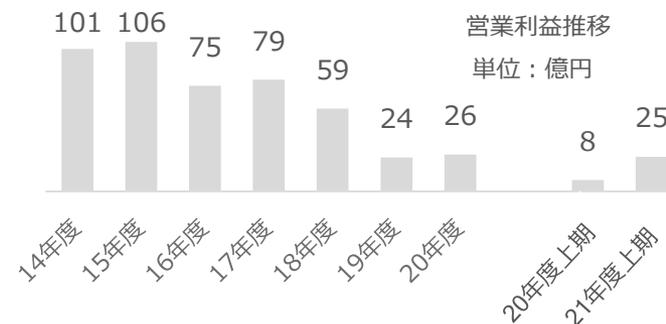


【週次】信用買残/週次平残（億円）



- 純営業収益は、第2四半期で前年比+552百万円、上期累計で+708百万円と大幅増収。
- 各利益も前年比大幅増加。
 - 上期営業利益は前年比+201%（4行目列）。前年第1四半期の一過性要因（※1）控除後で+69%
 - 上期経常利益は前年比+191%（5行目列）。前年第1四半期の一過性要因（※1）控除後で+64%
 - 上期当期純利益は前年比+594%（6行目列）。前年第1四半期の一過性要因（※1,2）控除後で+77%

当社の営業利益は2015年度の10,621百万円をピークにほぼ一貫して低落し、昨年度は通期で2,624百万円。これに対して今上期は半期で2,464百万円と、ようやく底打ち感。下期は新商品投入で反転攻勢を目指す。



(※1) 貸倒引当金640百万円（販管費）

(※2) 責任準備金積増97百万円（特別損失）

	単位：1～6行 百万円 7～8行 億 円	第2四半期（単四半期）			2021年度上期累計		
		a	前年比		d	前年比	
			b	c (%)		e	f (%)
1	営業収益	4,881	+252	+5%	9,759	+187	+2%
2	純営業収益	4,419	+552	+14%	8,623	+708	+9%
3	販管費	3,093	▲ 10	▲0%	6,158	▲ 937	▲13%
4	営業利益	1,326	+562	+74%	2,464	+1,645	+201%
5	経常利益	1,251	+482	+63%	2,415	+1,584	+191%
6	当期純利益	953	+426	+81%	1,748	+1,496	+594%
7	株式等個人委託売買代金/日	15,894	+2,559	+19%	14,980	+784	+6%
8	信用買残高/週次平残	34,314	+11,531	+51%	33,566	+12,219	+57%

■ 第2四半期の純営業収益は、前年比+552百万円、+14%と大幅増収。

➤ 最大の要因は、7月に実施した手数料改定。

✓ 委託手数料は前年比+365百万円（3行目b列）。信用手数料（2019年12月廃止）の復活が主因。

✓ 金融収支は、前年比▲17百万円（5行目b列）。信用手数料復活の代替で金利を旧水準に引き下げたので本来は大幅減収であり、想定を超える好結果。

⇒ 差引+348百万円の施策効果

➤ トレーディング（FX等）は前年比▲5%とほぼ復調（第1四半期は前年比▲32%）。

■ 上期累計は金融収支が前年比+515百万円（5行目e列）と増収を強くけん引。

単位：1～6行 百万円 7～8行 億 円	第2四半期（単四半期）			2021年度上期累計		
	a	b	c (%)	d	e	f (%)
1 営業収益	4,881	+252	+5%	9,759	+187	+2%
2 純営業収益	4,419	+552	+14%	8,623	+708	+9%
3 委託手数料 ※1	1,503	+365	+32%	2,660	+75	+3%
4 トレーディング ※1	307	▲15	▲5%	593	▲151	▲20%
5 金融収支	2,084	▲17	▲1%	4,468	+515	+13%
6 その他	525	+219	+72%	902	+269	+42%

※1 3～4行は本来は営業収益（1行目）の内数だが、比較の便宜のため純営業収益の内数に表示。

7 株式等個人委託売買代金/日	15,894	+2,559	+19%	14,980	+784	+6%
8 信用買残高/週次平残	34,314	+11,531	+51%	33,566	+12,219	+57%

■ 第2四半期は、前年と同水準（1行目c列）。上期累計は、前年比▲13%（1行目e-f列）で取引関係費と貸倒費用の減少が主因。

- 取引関係費（2行目）は第2四半期が前年比▲12%、上期累計が前年比▲17%。
 ～ 上期累計前年比▲436百万円の内、▲305百万円は通信・運送費のコスト削減効果。残余は現物取引の低調等。
- 広告宣伝費（2行目カッコ書き）は第2四半期が前年比+30%、上期累計が前年比+10%。
 ～ 数値上の増強に加えて、auフィナンシャルグループとのシナジー等により実際の露出は大幅に向上。
- 人件費（3行目）は第2四半期が前年比+30%、上期累計が前年比+26%増額。
 ～ 新規採用に加え、株主からの出向受入で実質戦力は金額以上に増大。
- 貸倒引当金は上期累計で前年比▲640百万円（7行目e-f列）。前年の大口貸倒分との差異。

単位：百万円	第2四半期（単四半期）			2021年度上期累計		
	a	前年比		d	前年比	
		b	c (%)		e	f (%)
1 販管費	3,093	▲ 10	▲0%	6,158	▲ 937	▲13%
2 取引関係費 （うち広告宣伝費）	1,063 (191)	▲ 149 (+44)	▲12% (+30%)	2,085 (351)	▲ 436 (+33)	▲17% (+10%)
3 人件費	519	+120	+30%	1,048	+218	+26%
4 不動産関係費 ※1	582	▲ 28	▲5%	1,196	▲ 40	▲3%
5 事務費	215	+11	+5%	437	+27	+7%
6 減価償却費	541	▲ 35	▲6%	1,080	▲ 50	▲4%
7 貸倒引当金	0	+41	--	0	▲ 640	▲100%
8 その他	170	+30	+21%	310	▲ 15	▲5%

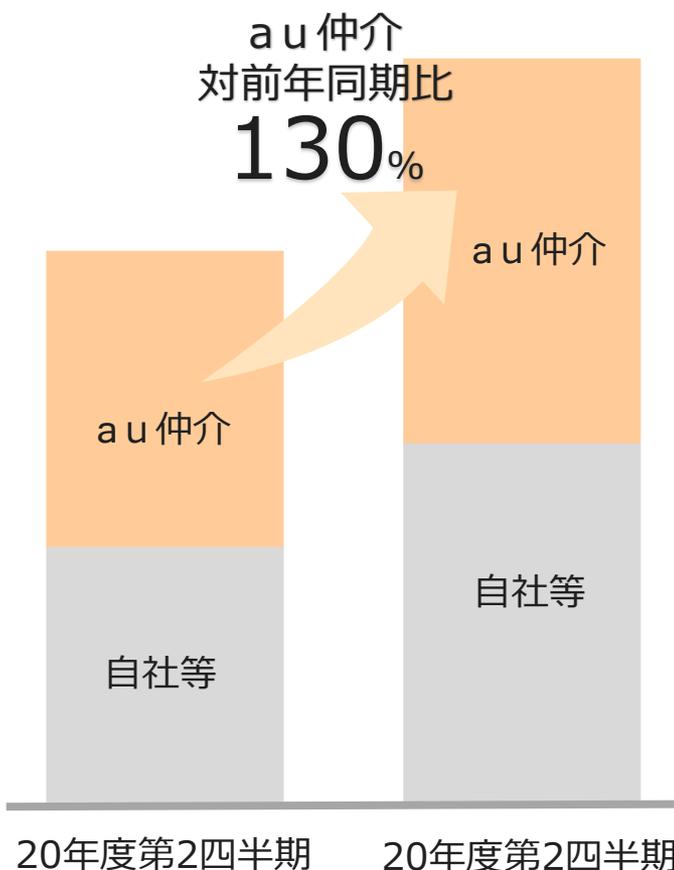
※1 不動産関係費：不動産費+器具備品費（システム経費）

- auの顧客基盤を生かしたプロモーションが奏功して口座開設数は堅調に増加（2行目c-d列）。
- 信用約定金額はほぼ前年並みの▲1%。手数料復活にも関わらず、顧客離反は殆ど無かったもの。
- FX売買代金は前年比62%増（7行目c-d列）。P2のとおり収益は前年比▲5%だが、取引通貨がドル円に寄ったことが要因であり、収益源としての基礎部分の成長は着実。
- 顧客基盤の拡大に比例して、預かり資産も増加（8行目c-d列）。

		a	b	c	d	
	単位	20年度第2四半期	21年度第2四半期	増減額	増減率	
1	総合口座数（四半期末）	件	1,192,129	1,334,545	+142,416	+12%
2	新規 総合口座開設数	件	22,885	30,730	+7,845	+34%
3	新規 店頭FX口座開設数	件	660	2,397	+1,737	+263%
4	株式約定金額	億円	76,531	76,897	+366	0%
5	うち現物約定金額	億円	13,700	14,606	+906	7%
6	うち信用約定金額	億円	62,830	62,291	▲539	▲1%
7	店頭FX売買代金	億円	73,725	119,589	+45,864	+62%
8	月末預かり資産額（四半期末）	億円	23,235	27,051	+3,816	+16%
9	うち株式等（四半期末）	億円	15,873	18,755	+2,882	+18%
10	うち投資信託（四半期末）	億円	1,627	2,135	+508	+31%
11	信用残高（四半期末）	億円	2,599	2,838	+239	+9%

- au仲介による口座開設は、前年度比+130%と順調に拡大。
- au 経済圏の商品バンドル強化で顧客利便性が向上。口座開設数を後押し。

口座開設実績



au 経済圏の商品バンドル

auまとめて金利優遇（2021年9月1日～）

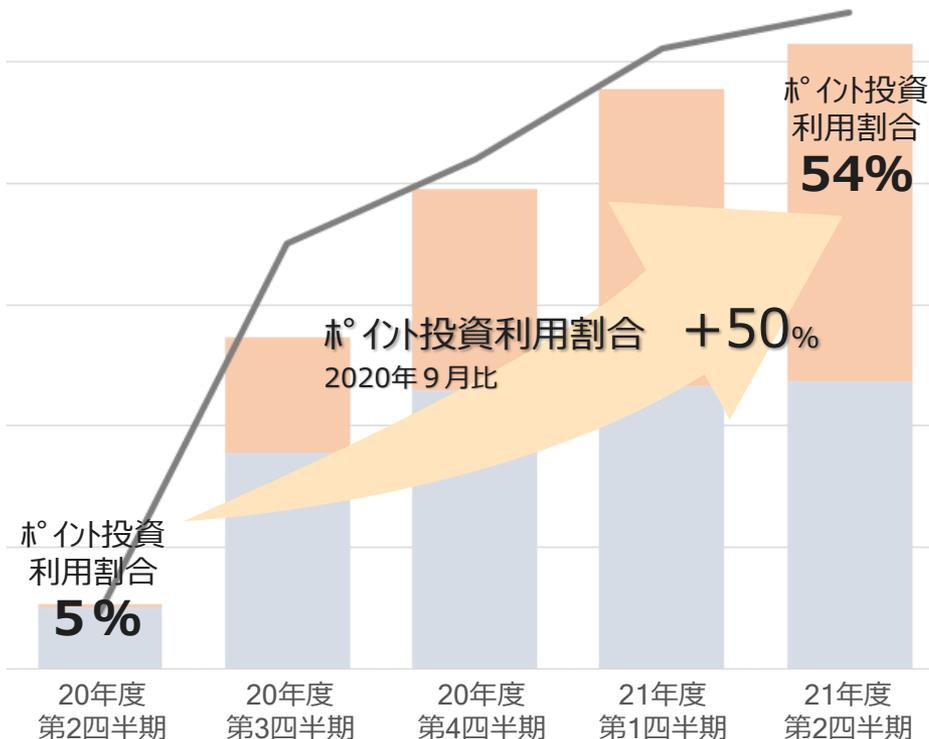


2021年8月から9月のau仲介口座開設数
117%に拡大

※「au仲介」はKDDI及びauじぶん銀行仲介による口座開設が対象。「自社等」は「au仲介」以外を集計
※金利は2021年9月1日時点

- 半分以上のお客さまが投資信託購入にPontaポイントを利用。
- 「auカブコム証券の資産形成プログラム」の対象をすべてのファンドに拡大。
- Pontaポイントをフックとしたau協業の取組みを拡大。

ポイント投資の利用割合※1



※1 表中オレンジはポイント投資利用口座（グレーはポイント投資非利用口座）

資産形成プログラム※2



対象銘柄数

1,170 本 ⇒ **1,432 本**
(2021年8月2日時点)

すべてのファンドを
Pontaポイント加算対象に拡大！

※2 保有している投資信託の月間平均保有額に応じて毎月Pontaポイントがたまるプログラム

- これまでのau協業の取組みを加速して、auフィナンシャルグループとの連携やPontaポイントを使えるサービスの拡大により、au経済圏の推進を強化。

2020年8月

「auカブコム証券の資産形成プログラム」開始

- ・ 投資信託の月間平均保有残高に応じPontaポイントを加算



2020年9月

「ポイント投資」開始

- ・ 投資信託の購入にPontaポイントをご利用可能に

2021年3月

auじぶん銀行のスマホアプリから投資信託を購入できるサービスを提供

- ・ 当社のkabu.com APIを利用したサービスを提供
- ・ “Asian Banking & Finance Retail Banking Awards 2021”の資産管理の部門賞を受賞

2021年下期
(予定)

「ポイント投資」対象商品拡大

- ・ プチ株®（単元未満株）の購入にPontaポイントをご利用可能に



「au PAY カード」で投資信託の積立を決済可能に

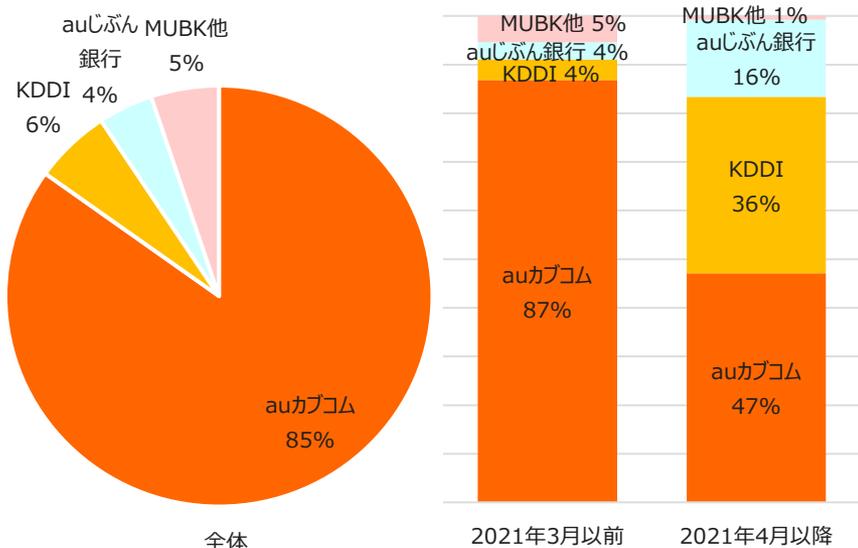
- ・ クレジットカードをつかって投資信託の積立がご利用可能に



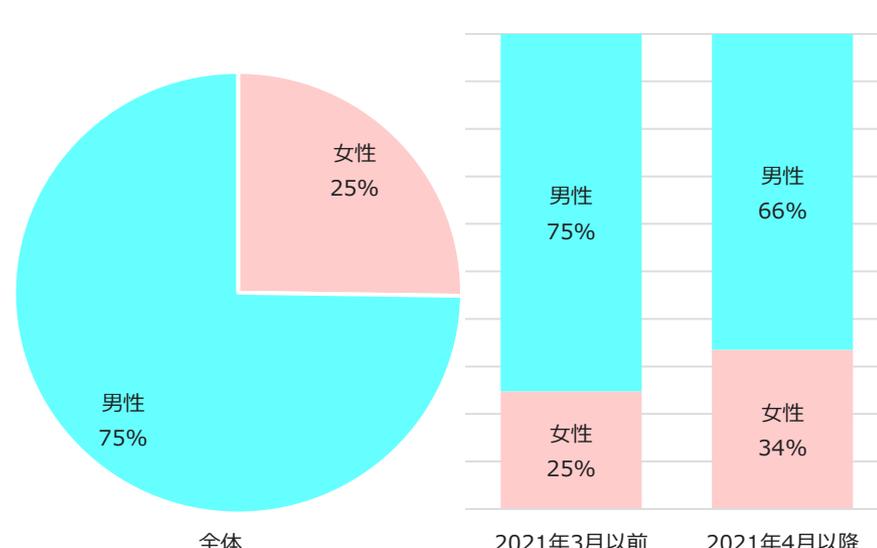
※ 2021年下期の予定は変更になる場合があります

ご参考1：口座の顧客属性

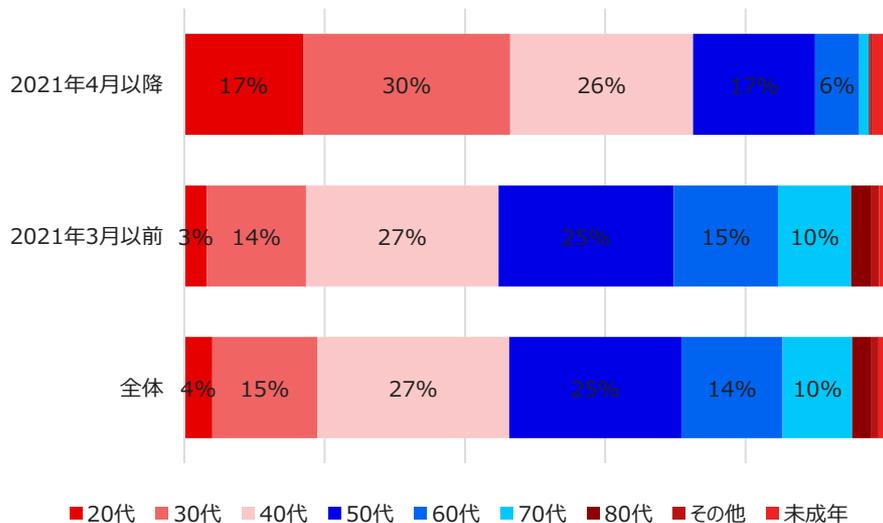
<仲介別証券口座割合>



<男女割合>



<年齢割合>



全体： 現在の当社の全口座
 2021年3月以前： 同月以前に開設された、現在もある全口座
 2021年4月以降： 同月以降に開設された、現在もある全口座

ご参考2：主なプレスリリース

三菱UFJ銀行への「kabu.com API」提供に関するお知らせ ～API活用で加速する埋込型金融サービス～

auカブコム証券株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：石月貴史、以下「auカブコム証券」）は、株式会社三菱UFJ銀行（本社：東京都千代田区、取締役頭取執行役員 半沢 淳一、以下「三菱UFJ銀行」）の「Money Canvas」（2021年12月リリース予定）に「kabu.com API」を提供いたします。

「Money Canvas」は三菱UFJ銀行が提供する資産形成の総合的なサポートを目的としたサービス（※1）です。証券に関するサービスにおいてはauカブコム証券の「kabu.com API」を活用して、三菱UFJ銀行が提供する世界観のままシームレスなお取引を実現いたします。「kabu.com API」はBaaS(Backend as a Service)としてサービスを提供する事で導入企業さまに適したUI/UXを実現する事ができます。

auカブコム証券は、20年以上にわたり第一線で培ってきたテクノロジーやノウハウを活かし、「kabu.com API」をはじめとするembedded finance(非金融事業者等の既存サービスに金融事業を組込むこと。低コスト化しやすい)に資する金融機能の提供を通じ、「すべてのひとに資産形成を。」の“ミッション”を実現して参ります。

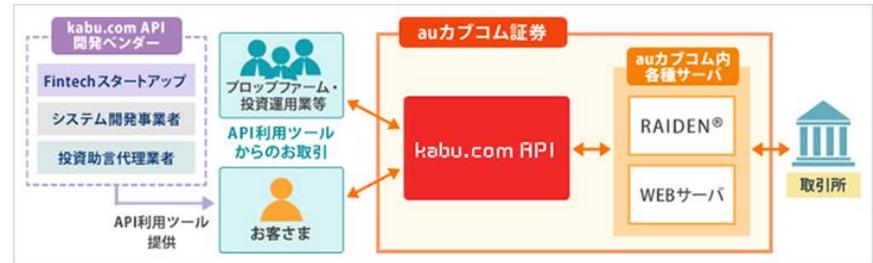
三菱UFJ銀行が提供する世界観のままお取引が可能



https://kabu.com/company/pressrelease/20210915_1.html

金融サービスのオープンイノベーションの推進基盤としてのkabu.com API

auカブコム証券は、世界的な金融サービスの構造変化・Fintechの進展の流れに先駆け、2012年から株式・投資信託・先物・オプション取引に対応したAPI(Application Programming Interface)環境としてkabu.com APIを提供しております。kabu.com APIは、発注系、注文照会、残高照会、リアルタイム時価情報など、従来は証券会社ツールを介さなければ得られなかった情報をAPIとして提供することにより、リリース以降、プロップファーム、投資助言事業者、取引ツール開発業者、ロボアドバイザー運営業者、ゲーム開発業者まで様々な業態の事業者様に活用いただいております。



kabu.com APIを活用することにより、サードパーティ事業者は、証券基幹システムに属する部分（複雑な金融法令諸規則に基づく顧客プロパティ管理、勘定系の余力計算、銘柄管理、情報配信基盤、有価証券と金銭の受渡処理等）についてはauカブコム証券の基盤を利用しつつ、UX（ユーザーエクスペリエンス）等のフロントレイヤー部分については事業者様の技術・サービスアイデアの実装にリソースを集中することが出来るため、高度な金融サービスをスピーディに開発・提供していくことが可能となります。自社システムのAPI開放は、特に、金融サービスの利用者ニーズが多様化する中、伝統的な金融機関が知見を持たない新しい技術領域であるAI（人工知能）、自然言語処理、機械学習、ブロックチェーン、オルタナティブデータ等様々な先端技術に強みを持つスタートアップベンチャー等とのスピーディな提携・事業化の必要性に応えるものです。

MUFG {APIs}

MUFGグループ傘下であるauカブコム証券は、「MUFG{APIs}」プロジェクトに参画（※2）しており、APIによるグループサービス協業やFintechスタートアップと技術的な連携を深めることにより、積極的にオープンイノベーションの推進に向けた取組みを行って参ります。

MUFG {APIs}

ご参考3：主なプレスリリース

資産運用におけるAPIの活用が評価され
「Asian Banking & Finance Retail Banking Awards」を受賞
～API活用で加速する埋込型金融サービス～

auカブコム証券株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：石月貴史、以下 auカブコム証券）の提供する投資信託APIを活用したauじぶん銀行株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：臼井 朋貴、以下 auじぶん銀行）の「じぶん銀行スマートフォンアプリ（以下 スマホアプリ）」が資産運用におけるAPI活用として評価され、「Asian Banking & Finance Retail Banking Awards（以下 本アワード）2021」にて、「Wealth Management Platform of the Year - Japan」を受賞したことをお知らせします。

本アワードでは資産運用サービスの一環として、APIを活用することで銀行アプリからワンストップな投信購入を可能にした点が高く評価されました。また、オープンバンキングに積極的に取り組みながら、グループ連携でエコシステムをしっかりと構築している点も、注目を集めました。



「kabu.com API」の投資信託機能について

本機能の特徴は投資信託APIを各社で提供されているサービスからシームレスに投資信託の購入ができるサービスとして提供していることです。このサービスの利用者第一号として、auじぶん銀行ではスマホアプリからauカブコム証券の投資信託を購入することや、投資信託の預り資産を確認することなどができます。

auカブコム証券は、「すべてのひとに資産形成を。」の“ミッション”を実現するため、20年以上大手ネット証券として第一線で培ってきたテクノロジーやノウハウを活かした「kabu.com API」をはじめとする金融機能の提供を通じembedded finance(非金融事業者等の既存サービスに金融事業を組込むこと。低コスト化しやすい)を実現し、より多くの方々の資産形成を応援します。



【ご利用いただける機能】

- ・投資信託の残高照会
- ・投資信託の保有明細照会
- ・投資信託の銘柄情報確認
- ・投資信託ランキングや保有明細からの買付

kabu.com APIなら普段使いのサービスに金融サービスの提供がはじめられます。



本アワードについて

「Asian Banking & Finance Retail Banking Awards」は、金融業界専門誌「Asian Banking & Finance（注1）」を発行するCharlton Media Group（注2）が主催する、アジア地域のリテール銀行を対象としたアワードです。2021年で16回目の開催となり、フィンテックやデジタル化が急成長する金融業界において、革新的な商品・サービスを発表した各国の金融機関を表彰しています。

日付	タイトル
8月2日	auカブコムFXデビューを応援！～FX新規口座開設+お取引で、現金最大50,000円プレゼント！～
8月2日	「Pontaポイントもらえる！投信お引越しかンペーン」を実施 ～「auカブコム証券の資産形成プログラム」も拡充～
8月6日	資産運用におけるAPIの活用が評価され「Asian Banking & Finance Retail Banking Awards」を受賞 ～API活用で加速する埋込型金融サービス～
8月16日	不正アクセス等にご注意ください！ ～お客さまにご注意いただきたいこと、当社の不正アクセスの取り組み状況～
8月26日	auじぶん銀行、auの金融サービスとの連携で業界最高水準の円普通預金金利最大年0.20%（税引後年0.15%）を提供 ～銀行・au PAY・クレカ・証券をまとめておトク。さらにau PAY 残高からauじぶん銀行への手数料無料の自動払出機能も提供～
9月1日	Pontaポイントがもらえる「auの投資信託」のキャンペーンを実施
9月15日	三菱UFJ銀行への「kabu.com API」提供に関するお知らせ ～API活用で加速する埋込型金融サービス～
9月16日	当社の不正アクセス被害等の防止に関する取り組み ～9月16日より連絡先変更をお知らせするメール配信を開始～
9月17日	PC版取引ツール「auカブコム FX ナビ」へシステムトレード機能を追加！ ～テクニカル指標等の条件を設定してFX自動売買～
9月21日	先物・オプションリスク管理ツール「先OPナビ」リリース！

- 企業・開示情報 <https://kabu.com/company/>
- 決算短信・決算説明資料 https://kabu.com/company/disclosure/accounting_line.html
- 口座数・約定情報等の推移 https://kabu.com/company/monthly_disclosure/order/default.html
- 顧客投資成績（信用評価損益率）の推移 https://kabu.com/company/monthly_disclosure/score/default.html
- システムレポート https://kabu.com/company/monthly_disclosure/system/default.html
- 店頭FX取引に係るリスク情報に関する開示 https://kabu.com/company/disclosure/fx_risk/default.html

■お取引にあたってご注意いただきたい事項

各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。当社ホームページにて取引内容、リスク等の説明内容事項をご覧ください。

- ※証券投資は、価格変動、金利の変動、為替の変動等により投資元本を割り込む恐れがあります。自動売買を含むすべてのご注文は必ず約定するものではありません。お取引の際は、目論見書、約款・規程集及び契約締結前交付書面等をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等をよくご理解の上、ご自身のご判断で無理のない資産運用を行ってください。
- ※投資信託の購入は、基準価額の変動により元本を割り込み損失を被ることがあります。ファンドにより販売手数料とは別に、信託報酬・解約手数料・その他手数料等を要するものがありますが、各ファンド別に要件・料率等が異なりますので表示できません。お取引に際しては、目論見書商品毎 および目論見書補完書面投資信託をよくお読みください。
- ※信用取引・指数先物取引・指数オプション取引は、保証金または証拠金以上のお取引が可能であるため、保証金または証拠金を超える 大きな損失を被ることがあります。又、取引期限があり取引期限を越えてのお取引はできません。
- ※外国為替証拠金取引FXは、取引金額がお客さまが預託しなければならない証拠金の額に比べて大きい額となっており、投資額以上の損失が生じる可能性があります。又、外国為替証拠金取引は元本や利益を保証するものではなく、為替変動リスクや金利変動等のリスクを伴います。本取引において当社が提示する売値と買値の間には差額があります。
- ※外国債券の価格は、金利水準の変動により上下するため、償還前に売却する場合には、元本損失が生じることがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに対する外部評価の変化等により、損失を被ることがあります。外国債券は、為替相場の変動等により、元本損失が生じたり、債券を発行する組織発行体が所属する国や地域、取引がおこなわれる通貨を発行している国や地域の政治・経済・社会情勢に大きな影響を受けたりするおそれがあります。外国債券を購入する場合は、委託手数料はかかりませんが、売買における売付け適用為替レートと買付け適用為替レートには差額があります。上記、適用為替レートは債券の起債通貨によって異なり、実勢レートに基づき当社が決定します。
- ※お取引に際しては、契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やお取引ルール等をよくご理解の上、ご自身のご判断で無理のない資産運用を行ってください。
- ※各商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等が必要です。詳しくは当社の手数料ご案内ページ<https://kabu.com/cost>等をご参照ください。手数料には消費税が含まれています。
- ※掲載情報の最新情報は当社ホームページ<https://kabu.com/>にてご確認ください。

◆ご投資にかかる手数料等およびリスクについてはこちらをご参照ください。 <https://kabu.com/company/pressrelease/info/escapeclause.html>